

学芸大木材工芸の紹介

太田朋宏
東京学芸大学 専任講師

今日工芸品と私たちが呼ぶ多くのものが、その時代時代の最高の素材と最高の技術とで作られたものであり、その時代の文化や技術を象徴しております。工芸とは長い時の流れの中で人との関わりのかたの旗幟が来し方をふりかえり、行く末を思いやる行為です。

現在木や森林は環境問題、南北問題、林業の再生、生活における化学物質の問題、伝統や文化、あるいは文学などの様々な分野に深く関わっています。そしてその多くが現代の私たちが直面している課題です。

木という素材にしっかり取り組んでもものを作ること。そしてその体験をふまえて、これからのもの作りのあるべき方向を考えること。これが学芸大の木材工芸です。

学芸大美術科の工芸は木材工芸と金属工芸の2本柱に創立以来の長い歴史を持っています。著名な作家も輩出し、豊かな木工体験を提供してきました。

本学からは多くの方が教職に就かれますが、このような木材工芸の体験が教育のさまざまな現場で生かされてゆくことをいつも期待しています。



木活プロジェクト 研究月報

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~w-woods/contact> >>> w-woods@u-gakugei.ac.jp

■ 2004 ■ > 02

日本木材青壮年団体連合会とは

- 日本木青連は、木材産業及び関連する業界に携わる青壮年の交流と親睦を通じ、木材産業の近代化に寄与するとともに社会的貢献を目指し、昭和31年全国の有志によって設立。全国8ブロック
- (北海道地区・東北地区・関東地区・北信越地区・東海地区・近畿地区・中四国地区・九州地区) の協議会からなる。

日本木材青壮年団体連合会 第49回全国会員静岡大会 開催

平成16年6月11・12日の二日間、日本木青連第49回全国大会が静岡にて開催されました。昨年度の総括や次年度への引き継ぎ、全国小中学生を対象とした「第28回木工工作コンクール」、木材を用いた優れた建築や加工技術を表彰する「第7回木材活用コンクール」の表彰式などが行われました。



(写真1)



(写真2)

三委員会合同分科会報告

大会2日目、合同分科会が開催されました(写真1)。三委員会が合同で報告会を催すのはこれが初の試み。コーディネーターの進行のもと第一部では、昨年度の活動報告として、

- ・ 木材活用委員会からは、木材が活かされる場を自ら知るという目的で行われたワークショップについて、
- ・ 木工工作委員会からは、今年で28回目をむかえる木工工作コンクール(写真2)の成果と今後の期待について、
- ・ 木材研究委員会からは、木青連で制作した副読本『森からの手紙』等を用いた訪問授業と調査結果について、

語られました。そして、それらの活動をどのように活かしていくべきか、第2部ではパネリスト全員によるディスカッションが展開されました。各委員会の活動や木青連のネットワーク、知識・技術が、様々な社会的ニーズと連携する可能性を持っていること、単なる社会貢献で終わらせるのではなくビジネスとして発展させ、循環・展開させていくことの重要性が確認されました。

会場からも木材に対する様々な想いや意見が飛び交い、今後の木青連の活動へ期待の聲が高まりました。(八重樫)

パネリスト
木材活用委員会委員長/堀 一彦 木材研究委員会委員長/岡本晴広
木工工作委員会委員長/杉本勝巳
コーディネーター
東京学芸大学助教授 鉄矢悦朗/東京藝術大学非常勤講師 北川卓